

ガントレット恒子著述目録・解題 (1)

T. Gauntlett Bibliography (1)

松 倉 真理子

Mariko MATSUKURA

社会科教育研究ユニット

(令和5年9月29日受付, 令和5年12月22日受理)

近代社会萌芽期に教育者, 社会事業家として実践した指導者の一人であるガントレット恒子 (1873-1953) の, 刊行された著述を目録として網羅し, 整理する。

I 解題

ガントレット (山田) 恒子 (1873-1953) は, 教育者, 社会事業家, 社会運動家として, 日本社会の「近代化」に多方面で力を注いだ指導者の一人である。公娼制度廃止運動に尽力した矢島楯子¹の薫陶を受け, キリスト教信仰をバックボーンに, 特に1920年代以降, 市民生活の改善・合理化, 参政権運動, 関東大震災後の復興救援, 国際平和といった問題に取り組み, 社会のリフォームに奔走した。

しかし, 尽力した業績や果たした役割の「断片」に目が向けられることがあっても, ガントレット自身の実像が注目されることはこれまで少なかったように思われる。事実, 人物事辞典の該当項目を瞥見すると, 「婦人参政権獲得期成同盟²」設立の功労者, 「汎太平洋婦人会議³」会長, 戦時下に団体として生き残るために統合させられた「日本婦人団体連盟⁴」会長, 「日本基督教婦人矯風会⁵」の「中興の祖」, 戦後の「婦人福祉中央連絡委員会⁶」委員長など, そこに挙げられる数々の「肩書き」にまず目を奪われる。他方で, 外国人男性と法的婚姻を結んだ初事例であることや, ロンドン海軍軍縮会議 (1930年) の全権らに軍縮請願書と署名⁷を手交したことが, 意外なエピソード⁸にも富んでいることが, かつてガントレットという人物をつかみにくくしているのではないだろうか。

さいわいにして, ガントレットは比較的多くの

原稿を書き残しているが, そもそもどのような内容のものがどの程度あるのかは, 把握されていないのが実情である。そのため, その思想や足跡の全体を評価するには, まずはそれらを整理することが不可欠となる。そこで, 本研究では, 刊行物としてガントレット本人が著述したものをできる限り網羅した目録の作成を試みる。

小論では, その中でも, (1) 単行本 (2) 逐次刊行物『婦人新報』での著述について把握する。以下にそれぞれの書誌事項および概要を記す。

(1) 単行本

①自伝

『七十七年の想ひ出』(1949年): 初版は植村書店より発刊。晩年にガントレット自身がまとめた自伝。事実や出来事が順序立ててまとめられている。ほとんどの人物事辞典⁹における記述は, この自伝に依拠したものとなっているが, 他の記録と突き合わせると前後関係が矛盾する箇所も散見されるため, 扱う際には注意が必要である。

②その他

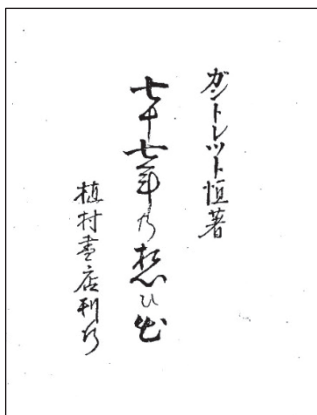
『座右銘: ブラウニング, ワーズワース, ロングフェロー, フキテヤー, ウキラードの言葉より』(1926年): 婦人新報社より発刊。1926年の『婦人新報』に連載した「座右銘」を収録したもの。

『型紙つき婦人子供服の作り方』(1929年)：主婦の友社より発刊。型紙の取り方などの洋裁の基本、シャツ、ブラウス、コート、ジャケット、下着などの作成法。本人は既に岡山時代(1900-1906年)に米国から教本や型紙を取り寄せて、和装から洋装への衣替えを済ませていた(ガントレット 1949=1990：68-69)。

『希望と法悦の祈り』(1930年)：婦人矯風会本部より発刊。Stewart, Elinor C. の詩の翻訳。同年の渡米時に、同行していた林歌子の紹介により知己となった著者の自作の詩を訳したもの。

『婦人講座』：「財団法人社会教育協会¹⁰」が発行するブックレット(1冊1執筆)。「家庭生活を豊かに、美しく、明るくする婦人百科の宝庫」と銘打った。ガントレットによる執筆は1932年および1938年の2冊。

『これがアメリカ』(1950年)：藤田たき、殖粟文夫、吉見静江、中沢健との共著。アメリカの生活習慣、国民気質、文化、歴史をオムニバスで概説。コロムビア大学同窓会編で同年に刊行されたシリーズ4冊(他は『青年の国アメリカ』『恐慌のアメリカ』『闘うアメリカ』)の1冊。



自伝『七十七年の想ひ出』(1949年初版)の扉

(2) 逐次刊行物『婦人新報』

『婦人新報』：631編

1895年矢島楯子が創刊。ガントレットが活動拠点とした「日本基督教婦人矯風会」の機関誌。(前身は『東京矯風雑誌』(1888～1893年、編集人：巖本善治)、『婦人矯風雑誌』(1893～1895年、発行人：矢島楯子)。)読者層は、主に中産階級のエリート階層でかつ「進歩的な」クリスチャン家庭の女性たちが想定されていると思われ、矯風会の取り組み、活動記録、指導

者の演説内容のほか、衣食住など家庭生活の知識や心がけ、女性の職業、読み物、西洋文化、海外事情、政治情勢など、信仰にかかわる啓発をベースとしつつも身近で幅広い教養をつけることが意識されている。戦時下、頁数や部数の制限はもちろん、出版統制により「終刊」を余儀なくされたが、戦後に復刊した¹¹。月刊誌。現在(2017年4月～)は、『k-peace』が後継紙となっている。



『婦人新報』第379号(1929年10月号)の表紙

II 凡例

表記法を下記に示す。

- (i) [発行年] ごとに順に示す。
 - ・単行本の場合
[発行年]
『書名』発行所
 - ・『婦人新報』記事の場合
[発行年]
発行月「タイトル」収録号
- (ii) 旧字の入力が難しい場合に新字に改めた。
- (iii) 著者の名義として「ガントレット恒子」の他に、「山田恒子」「山田恒」「ガントレット恒」「恒子」「恒」「Constance Tsune Gauntlett」「C.T.G.」および「岸登恒」(婦化名)も同一人物と見なす¹²。
- (iv) 『婦人新報』に関しては、『『婦人新報』解説・総目次・索引』(1986)の「索引」に掲載されているものを基に各号の「目次」「本文」を確認した。①「目次」と「本文」とでタイトル表記が異なる(漢字・かな・数字の不統一、新・旧仮名遣いなど)ものがかかり多く見られた。原則として、「本文」での表記を優先した。②疑問のある表記(連載記事における通し番号の混乱を含む)には(ママ)と付した。③上記の「索引」から漏れているものも散見された。今回の整理により、「本文」に名義が記載されているなど、新たにガント

レットによる著述と判断できるものには*を付した。

Ⅲ 目録

(1) 単行本

[1926]

『座右銘：ブラウニング、ワーズワース、ロングフェロー、フキテヤー、ウキラードの言葉より』婦人新報社

[1929]

『型紙つき婦人子供服の作り方』主婦の友社

[1930]

『希望と法悦の祈り』婦人矯風会本部

[1932]

『婦人講座 23 婦人と交際』財団法人社会教育協会

[1938]

『婦人講座 102 家庭と信仰』財団法人社会教育協会

[1949]

『七十七年の想ひ出』植村書店

[1950]

「アメリカの家庭生活」(コロムビア大学同窓会編)
『これがアメリカ』ジープ社

(2) 逐次刊行物『婦人新報』

[1895]

9「葡萄液製法」8*

[1903]

11「雑録 花の課に付て」79

[1904]

4「時報 マツギー婦人(ママ)一行の来着」84
4「雑録 軍人課の働き」84
5「雑録 花の課」85

[1905]

4「青年婦人矯風會と花の課に就て」96
5「雑録 故ウキラード嬢塑像除幕式 花の日来たらんとす」97
10「青年課公告」102

[1906]

9「青年婦人矯風會の諸姉へ」113

[1907]

3「青年課諸愛姉へ」119
4「我が母」120
8「青年部欄 明治三十九年度青年課報告」124*

[1908]

6「青年部欄 青年部諸愛姉へ」134
8「四十年年度青年部報告」大会号
10「青年部欄」137
11「青年部欄」138*

[1909]

3「青年部欄 小さき親切 青年部員諸姉へ」142
8「青年部欄 明治四十一年度青年部報告」146・7

[1910]

1「青年部欄 新年を迎へて」151
3「青年部欄 偉人の面影」153
5「青年部欄 清潔なる生涯のしをり 全国の會員諸姉へ」154・5
8「四十二年年度青年部報告」157・8

[1911]

9「明治四拾三年度青年部報告」169・170

[1912]

9・10「青年部(部長個人報告)」182

[1913]

1「ホーム 禁煙課及衛生課の方々へ」187
10「青年部諸愛姉へ」197

[1916]

4「就任の辞」225
8「緑蔭のいこひ 青年部の諸愛姉へ」229

[1917]

1「英文」235*
5「青年部報告」238
5「大正五年度日本基督教婦人矯風會青年部報告」238
7「英字欄」240
9「大廟附近にある遊郭廢止に対する會員並に有識者婦人の意見」242
10「英文欄」243
12「大正六年を送りて」245

[1918]

1「青年部の使命」246

- 4 「復活祭に際して」 249
- 5 「米國婦人の活動振」 250
- 6 「我等の味方」 251
- 7 「青年部諸姉へ」 252
- 8 「青年部長個人の働き」 253
- 8 「大正六年度日本基督教婦人矯風會青年部報告」 253

〔1919〕

- 6 「改造の機に際して」 263
- 7 「我等何をなすべき乎」 264
- 10 「秋深き頃」 267
- 11 「青年部の過去現在及び未来」 268

〔1920〕

- 1 「流動と進化と」 270
- 3 「では行つてまいります」 272
- 7 「英國エヂンバラ市より 祖國の姉妹へ」 275
- 9 「英國だより」 277
- 12 「殿で只今帰りました」 280

〔1921〕

- 1 「第十回萬國基督教婦人矯風會大會報告」 281
- 1 「萬國婦人参政權大會報告」 281 *
- 2 「フランセス、ウ井ラード嬢を想ふ」 282
- 3 「青年部 青年部々員諸姉へ」 283
- 5 「青年部報告」 284 大会号
- 5 「表彰状を手にされし人々の感想」 284 大会号
- 6 「青年部姉妹方へ」 285
- 7 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか」 286
- 7 「英文 SHORT SKETCH OF MADAM YAJIMA'S LIFE」 286
- 8 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか (二)」 287
- 9 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか (三)」 288
- 9 「英文 SHORT SKETCH OF LIFE OF MADAM YAJIMA (2)」 288
- 10 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか (四)」 289
- 11 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか (五)」 290
- 11 「英文 COUNTESS OF CARLISLE CALLED TO THE OTHER WORLD, NOTES」 290
- 11 「SHORT SKETCH OF LIFE OF MADAM YAJIMA (3)」 290
- 12 「英文 MADAM KAJI YAJIMA AND Miss Moriya HONORED GUESTS, A Vision Realized, SHORT SKETCH OF LIFE OF MADAM YAJIMA (4)」 291

〔1922〕

- 1 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか」 292
- 2 「英國婦人は如何にして参政權を得たるか」 293
- 2 「アナ、ゴールドン女史」 293
- 5 「大正十年度青年部報告」 295 大会号
- 5 「大正十年度通信書記報告」 295 大会号
- 8 「アーナ・ハワード・ショウ (一)」 298
- 9 「アーナ・ハワード・ショウ (二)」 299
- 10 「アーナ・ハワード・ショウ (三)」 300
- 11 「アーナ・ハワード・ショウ (四)」 301
- 12 「アーナ・ハワード・ショウ (五)」 302

〔1923〕

- 1 「アーナ・ハワード・ショウ (六)」 303
- 2 「アーナ・ハワード・ショウ (七)」 304
- 3 「アーナ・ハワード・ショウ (七) (ママ)」 305
- 4 「アーナ・ハワード・ショウ (九)」 306
- 5 「アーナ・ハワード・ショウ (十)」 307
- 6 「最近の感想一つ」 308
- 7 「開拓者の犠牲」 309
- 8 「有島武郎氏の死」 310
- 11 「帝都復興に就て婦人の立場から 新しい帝都に対する私の希望一つ二つ」 312

〔1924〕

- 1 「復興の第一春を迎へんとして」 313
- 2 「時のはぐくみ」 314
- 3 「参政權獲得後の各國婦人」 315
- 5 「婦人と廓清」 317
- 6 「米國の移民法案を何と見るか」 318
- 6 「性教育に就て」 318
- 11 「婦人参政權の要求」 323

〔1925〕

- 1 「英國婦人と参政權獲得並に對議會運動の跡」 324
- 1 「奉仕の喜悅」 324
- 1 「幕内姉と青年部」 324
- 1 「新潟支部の設立」 324
- 2 「フランセス・ウ井ラード嬢を想ふ」 325
- 2 「信仰の生活 座右銘としてこの一篇を讀者に捧ぐ」 325
- 3 「友情」 326
- 3 「「トーチ・ベアラー」を讀みて」 326
- 4 「祈祷」 327
- 4 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (二)」 327
- 6 「青年部報告」 328 大会号
- 6 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (三)」 328 大会号
- 6 「眞の友達・感謝」 328 大会号

- 7 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (四)」 329
 7 「力」 329
 8 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (五)」 330
 8 「聖者の勇氣」 330
 9 「矢島先生の御昇天から埋葬まで」 331 矢島楯子記念号
 9 「矢島先生とツルー夫人」 331 矢島楯子記念号
 10 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (六)」 332
 10 「成長・愛 (座右銘)」 332
 11 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (七)」 333
 11 「光 (座右銘)」 333
 12 「「トーチ・ベアラー」を讀みて (八)」 334
 12 「平和 (座右銘)」 334
 12 「時事 平和運動の将来」 334 *
- [1926]
 1 「米國婦人と婦人参政運動」 335
 1 「フランセス・ハバガル女史の詩の中より (座右銘)」 335
 1 「十一月中の巡廻地と集會」 335
 2 「米國婦人と婦人参政運動 (二)」 336
 2 「座右銘 詩聖アルフレッド・テニソン卿」 336
 3 「詩聖ロングフエロー」 337
 4 「第三十五回大會に臨み會頭に代りて」 付録
 4 「大正十四年度記録書記報告」 付録
 4 「部長報告 大正十四年度青年部報告」 付録
 5 「座右銘 詩聖ロバート・ブラウニング」 338
 6 「座右銘 詩聖フキテヤー (ジャン, グリーンリーフ)」 339
 7 「私共のゴールドン女史 七月廿一日女史の誕生日を祝して」 340
 7 「座右銘 詩聖ワーズワース (ウキリアム)」 340
 8 「暑夏涼風」 341
 8 「座右銘 ウキラード (フランセス・エリザベス)」 341
 9 「座右銘 詩聖エーマーソン (ラルフ・ウォルドー)」 342
 10 「國際婦人参政権協會の決議事項の大意に就て」 343
 10 「座右銘 ゴールドン (アナ・エ・)」 343
 11 「國際婦人参政権協會議決事項の大意に就て (承前)」 344
 11 「座右銘 スコット (ウォルター)」 344
 12 「旅行 信州への短い旅」 345
 12 「座右銘 ロウエル (ジエームス, ラツセル)」 345
- [1927]
 1 「詩人のおもかげ ハーバード (ジヨルジ)」 346
- 2 「改元所感」 347
 2 「詩人のおもかげ キーツ (ジャン)」 347
 3 「第五十二議會に於ける婦人参政権運動」 348 *
 3 「カーソル夫人と語る」 348
 3 「海外ニュース」 348
 3 「詩人のおもかげ ロゼツチー (クリスチナ・ジヨルジナ)」 348
 4 「詩人の面影 ミセス・ブラウニング (エリザベス・バレット)」 349
 4 「ウキラード女史の日誌より」 349
 5 「詩人の面影 コルリツジ (サチュル・テラー)」 350
 6 「花の日と花の課」 351
 7 「詩人の面影 バーンズ (ロバート)」 352
 8 「詩人のおもかげ アヂロン (ジヨセフ)」 353
 10 「詩人のおもかげ ラニエー (シドニー)」 355
 10 「青年部「母と子」若き女学生の自殺を耳にして」 355
 11 「十一月十一日平和記念日」 356
 11 「詩人のおもかげ ホームス (オリバ, ウエンデル)」 356
 12 「詩人のおもかげ ホイットマン (ウォルツ)」 357
 12 「降誕のうた」 357
- [1928]
 1 「開拓者ルーシー・ストウン」 358
 1 「心の糧」 358
 1 「新しき年を迎へて」 358
 1 「エルサレム最後の日 (一)」 358
 2 「普選に臨みて 普選に由る第一回總選挙に際して」 359
 2 「婦選の開拓者 アナ (ママ)・ハワード・ショウ」 359 *
 2 「久布白理事を送る エルサレム會議へ」 359
 2 「エルサレム最後の日 (二)」 359
 3 「第三十七回大會を迎へんとして」 360
 3 「總選挙感想 總選挙に何を学んだか」 360
 3 「普選達成デーのピラまきに參加して」 360
 3 「エルサレム最後の日 (三)」 360
 4 「ジヨセフケン・バトラー夫人誕生百年記念運動に參加を望む」 361
 4 「バトラー夫人と廓清事業」 361
 4 「エルサレム最後の日 (四)」 361
 5 「エルサレム最後の日 (五)」 362
 6 「エルサレム最後の日 (六)」 363
 7 「婦選運動の闘士パンクハースト女史逝く」 364
 7 「エルサレム最後の日 (七)」 364
 8 「エルサレム最後の日 (八)」 365

- 10「汎太平洋婦人會議を終つて ハワイにて」367
- 11「正午の祈り 惟この一事を努む 平和運動と我會」368
- 11「汎太平洋婦人會議を終つて (二)」368
- 11「エルサレム最後の日 (八) (ママ)」368
- 12「ルート夫人母堂逝く」369
- 12「クリスマス (シリシヤの歌)」369
- 12「エルサレム最後の日 (九)」369

〔1929〕

- 1「世界の婦人 ハリデ夫人」370
- 1「エルサレム最後の日 (十)」370
- 2「世界の女性 ヒーズ男爵夫人」371
- 2「櫻井ちか子女史逝く」371
- 2「故伊藤一隆先生を想ふ」371
- 2「エルサレム最後の日 (一一)」371
- 3「ラウンドテーブル 国民性批判會 (座談會)」372
- 3「世界の女性 サロジニ・ナイデユ女史」372
- 3「エルサレム最後の日 (一二)」372
- 4「行く人歸る人 世界の女性 伯爵ロスキー女史を迎へて」373
- 4「エルサレム最後の日 (一三)」373
- 5「世界の女性 キヤット夫人とその私生活」374
- 5「エルサレム最後の日 (一四)」374
- 6「ラウンドテーブル 教役者として觀た矯風會 (座談會)」375
- 6「部」とは何か」375
- 6「エルサレム最後の日 (一四) (ママ)」375
- 7「母の座談會 夏休・性教育」376
- 7「部の研究 修養部」376
- 7「地方だより 「家庭部よりは法律部に」と陣容整ふ 落合支部」376
- 7「エルサレム最後の日 (一五)」376
- 8「部」の研究 廃酒部」377
- 8「エルサレム最後の日 (一六)」377
- 9「部」の研究 家庭部」378
- 9「國際婦人参政權協會第十一次大會報告を手にして」378
- 9「エルサレム最後の日 (一七)」378
- 10「婦人と政治知識 公民講座 (一) 集團生活, 社会」379
- 10「部」の研究 文書部」379
- 10「日本は何時」379
- 10「巡廻のあと 朝鮮めざして」379
- 10「エルサレム最後の日 (一八)」379
- 11「國際平和 (社説)」380
- 11「婦人と政治知識 公民講座 (二) 公民」380
- 11「平和問題座談會」380

- 11「部」とは何か 法律部」380
- 11「エルサレム最後の日 (一九)」380
- 12「婦人と政治知識 公民講座 (三) 我が家」381
- 12「部」の研究 教育部」381
- 12「エルサレム最後の日 (二十)」381

〔1930〕

- 1「婦人と政治知識 公民講座 (四) 親子」382
- 1「往く人歸る人 出発に際して 人種的偏見を取去りたい」382
- 2「婦人と政治知識 公民講座 (五) 親族」383
- 3「ワシントン通信 米國國民禁酒法成立十周年記念會に臨んで」384
- 4「婦人と政治知識 公民講座 (六) 戸籍, 相続」385
- 5「ヘーグ平和宮から」386
- 5「ワシントンに於ける婦人の聲」386
- 7「英米に使して」388
- 8「國産愛用誌上座談會」389
- 8「滯英日誌の中より 山莊の一夕, 或日曜の午後, 食事」389
- 9「滯英日誌の中より (二) 尼寺の生活」390
- 9「公民的自覚」390
- 10「婦人と政治知識 公民講座 (七) 相続 (遺産相続), 遺言」391
- 10「滯英日誌の中より (三) 牛津の一日」391
- 11「世界平和と國際聯盟」392
- 11「滯英日誌の中より (四) アスター子爵夫人の招待, 夜會」392
- 12「昭和五年と矯風會 (社説)」393
- 12「参政權セクション 公民講座 (八) 財産, 職業」393
- 12「同志としての二宮姉の想ひ出 (本部理事追悼座談會)」393
- 12「滯英日誌の中より (五) 墓参, 古い友達」393

〔1931〕

- 1「婦人と政治知識 公民講座 (九) 議員の選挙, 選挙の種類, 議員の資格と任期, 失格者」394
- 1「滯英日誌の中より (六) 議會傍聴, 議場, 小夜會」394
- 2「平和部通信 情報部を新設」395
- 2「参政權セクション 公民講座 (十) 市會」395
- 2「滯英日誌の中より (六) (ママ) 楽しい邂逅, 和服がミス林?, アップル, カート」395
- 3「参政權セクション 公民講座 (八) (ママ) 市役所」396
- 3「滯英日誌の中より (七) オランダ行」396
- 4「婦人と政治知識 公民講座 (八) (ママ) 市の財政」

- 397
- 5「婦人と政治知識 公民講座 (九) 租税」398
- 6「婦人と政治知識 公民講座 (一〇) 府懸」399
- 6「権利なくして責任は果せぬ」399
- 7「国際聯盟とは何か」400 *
- 7「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ)」400
- 8「世界を抱擁いた故ゴルドン女史 その生涯」401
- 8「故ゴルドン女史の思出」401
- 8「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (二)」401
- 9「婦人と政治知識 公民講座 (十) (ママ) 國家」402
- 9「国際聯盟とは何か」402
- 9「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (三)」402
- 10「ラヂオ批判座談會 (但し婦人の立場から)」403
- 10「婦人と政治知識 公民講座 (十一) 立憲政治」403
- 10「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (四)」403
- 11「国際聯盟とは何か」404
- 11「婦人と政治知識 公民講座 (十二) 帝國議會」404
- 11「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (五)」404
- 12「急告 (水災義捐金と, 朝鮮罹災民救助について)」405
- 12「婦人と政治知識 公民講座 (十三) 國務大臣」405
- 12「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (六)」405
- [1932]
- 1「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (七)」406
- 2「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (八)」407
- 3「世相と子供」座談會」408
- 3「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (九)」408
- 4「世界の矯風會 人と運動」409
- 4「リットン家の人々 婦選のチャンピオン」409
- 4「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十)」409
- 5「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十一)」410
- 6「先驅者を想ふ (座談會)」411
- 6「ハーシヤフエルト博士と語る (性問題に就て)」411
- 6「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十二)」411
- 7「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十三)」412
- 8「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十四)」413
- 9「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十五)」414
- 10「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十六)」415
- 10「DRY AMERICA! KEEP DRY! AN APPEAL, TO UNCLE SUMI!」415
- 11「平和部 我らの立場 小事を軽んずるな」416
- 11「平和の歌 新天, 新地,」416 *
- 11「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十七)」416
- 12「クリスマス語る (座談會) はき違へられたクリスマスはどうするか?」417
- 12「スタントン夫人 (エリザベス, ケイデイ) (十八)」417
- [1933]
- 1「光を目指して」418
- 2「イエスを仰ぎ見やう」419
- 2「天に凱旋せられし根本正先生」419
- 3「愛國」420
- 4「遵法週間」421
- 4「ジョンソン報告批評座談會」421
- 5「母」422
- 6「我等の抱負」423
- 7「海に聞かう」424
- 7「基督者婦人に訴ふ」424
- 8「山は語る」425
- 9「聖業」426
- 10「お星様」427
- 10「一頁論壇 性教育を怖れるな」427
- 11「平和は愛の道より (扉)」428
- 11「満鮮の旅から歸つて」428
- 12「クリスマス」429
- 12「主なきクリスマス」429
- [1934]
- 1「矯風會ごよみ 一月 一月第一木曜日 (一月四日) 矯風會祈祷日」430
- 2「矯風會ごよみ 二月 二月十七日 (故ウキラード女史昇天の日)」431
- 2「伊藤秀吉・久布白落実二氏に轉換期の廢娼諸問題

- に就いて聴く會（座談會）」431
 2「わが好き伴侶 亡き妻マーガレットの想ひ出」431
 3「大會を迎ふ 第四十三回大會迫る」432
 3「座談會 基督教婦人と社會運動」432
 4「矯風會ごよみ 四月 四月一日－七日禁酒禁煙法
 遵奉週間 四月廿四日ジャパNDER（矢島楯子先生
 誕生日）」433
 4「日支間の橋となるもの 上海矯風會總幹事劉夫人と
 語る」433
 5「矯風會ごよみ（ママ）五月 五月十三日「母の日」
 五月十八日「國際善意デー」」434
 6「矯風會ごよみ 六月 六月八日花の日 六月十五日故
 ゴールドン女史昇天日 六月十六日故矢島楯子先生
 昇天日」435 *
 6「河の彼方」435
 7「矯風會ごよみ 七月 七月十九日－廿六日婦人矯風
 會萬國大會 七月廿九日－八月三日國際アルコール
 協會世界大會」436
 7「河の彼方（二）」436
 8「河の彼方（三）」437
 9「河の彼方（四）」438
 10「矯風會ごよみ 十月 公娼制度廢止運動」439
 10「汎太平洋婦人會議に出席して」439
 10「河の彼方（五）」439
 11「矯風會ごよみ 十一月 十一月十一日平和祈禱日」
 440
 11「汎太平洋婦人會議は何を議したか」440
 11「河の彼方（六）」440
 12「矯風會ごよみ 十二月 十二月六日創立記念日
 十二月八日世界矯風會平和日」441
 12「河の彼方（七）」441

〔1935〕

- 1「矯風會ごよみ 讚美と願ひ」442
 1「平和問題」442
 1「河の彼方（八）」442
 2「矯風會ごよみ 理想と現實」443
 2「河の彼方（九）」443
 3「矯風會ごよみ 父の愛」444
 3「河の彼方（十）」444
 4「矯風會ごよみ 復活」445
 4「河の彼方（十一）」445
 5「矯風會ごよみ 母性を護れ」446
 5「河の彼方（十二）」446
 6「矯風會ごよみ 花の日」447
 6「世界の偉人 アダムス女史を憶ふ」447
 6「青年部養成座談會」447
 6「河の彼方（十三）」447

- 7「矯風會ごよみ 流れ 感謝と希望」448
 7「社説 選挙肅正の徹底 國法を遵奉せよ」448
 7「廢娼の闘士故三宅磐先生を偲ぶ座談會」448
 7「青年部関西西部會發會式に参加して」448
 7「河の彼方（十四）」448
 8「矯風會ごよみ 海に山に」449
 8「社説 我國近時の天災 交通禍」449
 8「女流登山家 黒田米子女史に「山の話」を聴く會」
 449
 8「河の彼方（十五）」449
 9「矯風會ごよみ 我等は成長すべきものなり 良心運
 動」450
 9「社説 何故の肅正運動」450
 9「河の彼方（十六）」450
 10「矯風會ごよみ 若人よ奮ひ立て」451
 10「社説 純潔運動」451
 10「河の彼方（十七）」451
 11「扉 矯風會ごよみ 十一月」452
 11「社説 平和への道」452
 11「河の彼方（十八）」452
 12「扉 矯風會ごよみ 十二月」453
 12「河の彼方（十九）」453

〔1936〕

- 1「扉」454
 1「河の彼方（二十）」454
 2「扉」455
 2「河の彼方（二一）」455
 3「扉」456
 3「河の彼方（二二）」456
 4「扉」457
 4「河の彼方（二三）」457
 5「扉」458
 5「河の彼方（二四）」458
 6「扉」459
 6「矢島先生の想ひ出 六月十六日矢島記念日」459
 6「河の彼方（二五）」459
 7「扉」460
 7「河の彼方（二六）」460
 8「扉」461
 8「河の彼方（二七）」461
 9「扉」462
 9「河の彼方（二八）」462
 10「扉」463
 10「河の彼方（二九）」463
 11「扉」464
 11「座談會 gantレット夫人を中心に“支那”を語
 る」464

- 11 「河の彼方 (三十)」 464
 12 「扉」 465
 12 「河の彼方 (三十一)」 465
- [1937]
 1 「河の彼方 (三十二)」 466
 2 「河の彼方 (三十三)」 467
 3 「河の彼方 (三十四)」 468
 4 「河の彼方 (三十五)」 469
 5 「第四十六回大會に當りて 開會式に於ける演説」
 470
 5 「河の彼方 (三十六)」 470
 7 「航海中より」 472
 7 「河の彼方 (三十七)」 472
 9 「萬國婦人矯風會大會に出席して」 474
 9 「汎太平洋婦人會議」 474
 10 「河の彼方 (三十八)」 475
 11 「河の彼方 (三十九)」 476
 12 「河の彼方 (四十)」 477
- [1938]
 1 「世界のあれこれ」 478
 2 「世界のあれこれ」 479
 3 「大会を迎へるに當りて」 480
 3 「世界のあれこれ」 480
 4 「故渡瀬香芽子刀自を憶ふ」 481
 4 「世界のあれこれ」 481
 5 「第四十七回大會に臨みて 開會式に於ける演説」
 482
 5 「世界のあれこれ」 482
 6 「國際あれこれ」 483
 7 「國際あれこれ」 484
 8 「時局随想」 485
 9 「外誌より 醫療組合と米國」 486
 10 「外誌より 無錢の百萬長者」 487
 11 「ロックフェラー氏と家庭」 488
 11 「汎太平洋婦人會議は？」 488
 12 「昭和十三年と婦人」 489
 12 「外誌より 人生案内」 489
- [1939]
 1 「社説」 490
 2 「隣人愛の擴大」 491
 2 「故ウキラード女史 生誕百年記念とは……」 491
 3 「悔いなき生活」 492
 3 「時局欄 早くも支那民衆の友となつた天橋愛隣館
 医療セトルメント」 492 *
 3 「興望館セトルメント 二十年記念」 492
- 4 「復活の喜び」 493
 5 「「母の日」と記念事業」 494
 6 「凱旋記念日」 495
 6 「矢島先生」 495
 6 「納棺の式に當つて 偉大なる人生繪畫館」 495
 7 「宣傳より實質」 496
 7 「百億貯蓄」 496
 9 「桑港より」 498
 11 「ガントレット先生からのお便り」 500
- [1940]
 1 「米國だより 感謝祭の日に」 502
 2 「卷頭言 協和の力」 503
 2 「滯米五ヶ月」 503
 3 「卷頭言 燈をともして」 504
 3 「素晴らしい神戸支部總會」 504
 4 「卷頭言 手を支ふる者」 505
 4 「先驅者の面影」 505
 5 「卷頭言 持久力」 506
 5 「キャット夫人の忠言」 506
 6 「卷頭言 曙を望みて」 507
 6 「北歐のフキンランドとはどんな國か」 507
 7 「卷頭言 助けは何処よりか」 508
 7 「オランダとウイルヘルミナ女皇」 508
 8 「卷頭言 我をつかはし給へ」 509
 8 「旅行者の眼に映つたデンマーク」 509
 9 「卷頭言 懼れなき道」 510
 10 「卷頭言 滅私奉公」 511
 10 「スキーデンの農村を語る」 511
 11 「卷頭言 感恩」 512
 12 「卷頭言 鐘の音」 513
 12 「年末随感」 513
- [1941]
 1 「卷頭言 靈魂の保險」 514
 2 「卷頭言 動かぬ礎」 515
 2 「気づいたまゝ」 515
 3 「卷頭言 愛の賜物」 516
 3 「思ひつくまゝ」 516
 4 「卷頭言 遵法運動の強調」 517
 4 「眞理子の想ひ出」 517
 5 「卷頭言 靈魂の食糧」 518
 5 「思ひつくまゝ 母の日 禮法」 518
 6 「卷頭言 衷なる能力」 519
 6 「思ひつくまゝ 報国の婦人 頑張り」 519
 7 「卷頭言 勝利を期して」 520
 7 「或母の手紙」 520
 8 「信仰」 521

- 8「思いつくまま (ママ) 尊い犠牲 臺所と貯金」521
 9「巻頭言 無限の保証」522
 9「海外便り」522
 10「巻頭言 神の愛」523
 10「忘れ難き人々」523
 11「巻頭言 感謝」524
 11「忘れ難き人々」524
 12「社説 純潔國防」525
- [1942]
 1「巻頭言 新年の祈り」526
 1「お千代さん 私の忘れ得ぬ人々」526
 2「巻頭言 彼等のそれよりも」527
 2「忘れ難き人々 長谷川のお喜多さん」527
 3「巻頭言 新しき革囊」528
 3「忘れ得ぬ人々 奥住御夫妻」528
 4「巻頭言 新しき世界」529
 4「思ひつくまゝ」529
 5「巻頭言 あるべき姿」530
 6「巻頭言 能力の源泉」531
 7「巻頭言 只此一事を」532
 8「臨時大会予告」533
 8「巻頭言 禮拜」533
 9「巻頭言 天に事ふるの心 南洲翁は訓へて」534
 10「巻頭言 明朗なる堪忍」535
 11「巻頭言 舊殻を脱して」536
 12「巻頭言 新使命」537
- [1943]
 1「巻頭言 昭和十八年を迎へて」538
 2「巻頭言 新建設と教育」539
 3「巻頭言 勝ちぬく能力」540
 4「巻頭言 相互の信頼」541
 5「巻頭言 人口問題」542
 6「巻頭言 我等も其後に」543
 8「垂範」545
 9「決戦期と貯蓄」546
 9「国民貯蓄の増強と我々」546
 10「巻頭言 豆戦士を護れ」547
 11「巻頭言 必勝祈願」548
 12「巻頭言 戦果と婦人」549
- [1944]
 1「新しき決意」550
 2「時の声」551
 3「舊常識を捨てよ」552
 4「逞しき退陣」553
- [1945]
 12「新しき道」554
- [1946]
 1「時の言葉 二里の公役」555
 4「故林歌子会頭を悼む」557
 6「平和の鍵は愛の徹底」558
 6「[「国際聯合」に就いて]」558
 7「[「デモクラシー (民主々義)」の概念]」559
 7「会頭就任に際して」559
 8「謙虚, 反省」560
 9「純潔と能力」561
 9「純潔運動の今昔」561
 10「アンラとは」562
 10「故十時菊子女史を悼む」562
 11「民主々義と共同責任」563
 11「ボールス夫人の御伝言」563
 12「クリスマスを迎へて」564
 12「ブランボー博士の談話より」564
 12「故皆川せき子刀自を想ふ」564
- [1947]
 1「昭和二十二年を迎へて」565
 1「国際祈祷日について」565
 3「一年を経て林会頭を偲 (ママ)」566
 3「万国基督教婦人矯風会故創立者ウキラー女史」566
 4「ジャパン・デーとは」567
 4「純潔平和運動の今昔」567
 6「我等の前途」568
 6「児童福祉運動」568
 7「マーシャル元帥 (時の人)」569
 7「海外だより」569
 8「起てよ同志」570
 8「第五十一回大會を臨みて - 開會式に於ける演説」570
 9「貿易再開と正直」571
 10「平和の招来」572
 10「世界への窓開く」572
 11「祈祷 (聖き奉仕)」573
 12「主の降誕日をむかへて」574
- [1948]
 1「新年の希望」575
 2「世界祈祷日にあたりて」576
 3「光明をもたらすもの」577
 4「平和実現のために」578
 6「小事を軽んずるな」579

- 6 「デントン・ハウスを訪ねて」 579
- 6 「矢島先生一人間として 信仰の先生」 579
- 8 「法を活かせ」 581
- 9 「故ピンフォード夫人を悼む」 582
- 9 「祈り」 582
- 10 「聖旨のなる日」 583
- 11 「平和記念日に当りて」 584
- 12 「クリスマスをおかえて」 585

〔1949〕

- 1 「昭和二十四年を迎えて」 586
- 1 「衆議院議長への建議書」 586
- 1 「金婚記念日に際して」 586
- 2 「ウキラード女史と矯風会」 587
- 3 「蛇の如く慧かれ」 588
- 4 「我等の標識は何か」 589
- 5 「遵法運動」 590
- 6 「平和の招来は可能か」 591
- 8 「正直運動」 592
- 9 「同志の睦み」 593
- 10 「国際連合記念日を迎えて」 594
- 10 「新刊「七十七年の想ひ出」」 594
- 11 「正義と寛容」 595
- 12 「上なき賜物」 596

〔1950〕

- 1 「昭和二十五年を迎えて」 597
- 2 「平和への道」 598
- 3 「恩恵を数えよ」 599
- 3 「祈りの人「林先生」」 599
- 5 「復活祭を迎えて」 600
- 6 「只一つにならんため」 601
- 7 「霊戦の勝利を期して」 602
- 7 「講和問題について提訴 非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」 602
- 8 「平和の道は足許に」 603
- 9 「怠らず前進しよう」 604
- 10 「恵みを数えよう」 605
- 10 「陣容を新たにして排酒へ」 605
- 10 「世界禁酒日曜日の復活」 605
- 11 「責任は何所に」 606
- 12 「クリスマスを迎えて」 607

〔1951〕

- 1 「新年をおかえて」 608
- 2・3 「「無冠の女王」ウキラード女史を想う」 609
- 4 「「矢島デー」を迎えて」 610
- 5 「逝きし同労者を想う」 611

- 6 「全国評議員会に出席して」 612
- 6 「皇太后陛下の御逝去を悼みて」 612
- 7 「各自の部分に忠實なれ」 613
- 8 「ミセス・ポールス夫人とガントレット會頭 (写真)」 614
- 8 「自己の求むる所を他に」 614
- 9・10 「平和の鍵」 615
- 11 「戦闘たけなわなり」 616
- 12 「クリスマスを迎えるに当りて」 617

〔1952〕

- 2 「巻頭言 新しき我等の覚悟」 618
- 3 「巻頭言 英國民の悲痛をわかちて」 619
- 4 「巻頭言 全国評議員会への招請」 620
- 5 「巻頭言 我等のたち場 京都の大會を顧みて」 621
- 5 「故エラ・エー・ブル夫人を偲びて」 621
- 6 「巻頭言 揺るぎなき友情」 622
- 7 「巻頭言 赦罪の教訓」 623
- 7 「記憶のなかより」 623
- 10 「巻頭言 只前進あるのみ」 626

〔1953〕

- 1 「巻頭言」 628
- 2 「巻頭言 聖手のわざ」 629
- 3 「巻頭言 我等の中保者」 630
- 3 「故加茂美好夫人を偲びて」 630
- 4 「巻頭言 復活」 631
- 4 「聖杯」 631
- 5 「巻頭言 汝等たがいの労を負え」 632
- 5 「第五十三回全國大會に於ける(一) 會頭挨拶」 632 *
- 6 「巻頭言 聖書とは」 633
- 6 「聖杯 (続き)」 633
- 7 「巻頭言 主と偕に」 634
- 7 「聖杯 (続き)」 634
- 8 「巻頭言 反省と應召」 635
- 8 「聖杯 (続き)」 635
- 9 「聖杯 (続)」 636

Ⅳ まとめ

ガントレットの残した著述物は、實用記事、解説、エッセイ、文芸、聖句、時事問題への論考・批評、社説、巻頭言など実に多岐に渡る。

特に日本キリスト教婦人矯風会の機関誌『婦人新報』への寄稿数は、600稿を優に超える夥しい執筆量である。実際、23歳で「入会」¹³してすぐに、第8号(1895年9月)で執筆デビュー、没する直前の第636号(1953年9月)に至るまで創刊時期からほぼ毎号何らかの文章を寄せてい

る。若い頃には組織内連絡、報告のような事務的記事がみられるが、1920年代に入り俄然、批評記事が多くなる。ガントレットにとって1920年は、文部省生活改善同盟会¹⁴の委員に選任されたことに加え、矢嶋楯子とともに世界キリスト教婦人矯風会のロンドン大会に出席し、その足で世界婦人参政権協会のジュネーブ大会にも参加するなど、他国との比較のなかで日本の女性の置かれた立場を捉えなおす機会をもったことが大きな転機になったと思われる。佐藤（2020）も指摘するように、この時期の「英国婦人は如何にして参政権を得たるか」「英国婦人と参政権獲得並びに対議会運動の跡」「米国婦人と婦人参政運動」「国際婦人参政権協会議決事項の大要に就て」といった記事からは、海外の参政権運動の先例から意欲的に学びとり、国内運動の組織化の際にその手法を取り入れようとしていたことが裏付けられる。（同時期の婦選獲得同盟の機関誌『婦選』にも寄稿し、同様の議論を繰り返している。）

また、1929年10月から通算18回に渡って連載した「公民講座」¹⁵では、政治や法制度にかんする基礎知識を広く読者層の女性に伝えることに熱意を注いだ。一方で、文学にも関心が深く、詩歌の他、海外で話題の小説の紹介にも余念がない。1933年に発表された英国小説、ゴールズワージー（John Galsworthy, 1867-1933）の『河の彼方』¹⁶を、いち早く1934年6月号から40回に渡って翻訳し、離婚訴訟を背景とした女性の社会的地位の低さに対する問題意識を読者と共有することを試みた。その他、震災後の復興、禁酒、母親の役割、若者論、性教育、海外情勢、排日問題、海外の女性リーダーの紹介など、一市民であることの心構えを、自分も学びながら読者（の女性）にたいして説いている。

しかし、1940年代以降は言論統制の影響が色濃く、ページ数・部数を極端に減らし、副会頭として組織維持に尽くすだけで精一杯という厳しい苦境にあえいでいたことが窺われる。敗戦直後の混乱期では、会頭として組織を立て直しながら担当した巻頭言のなかで、キリスト教信仰に基づく内省的な記事が多くみられる。

大小さまざまな著述の中で通底するものとして筆者が強く感じるのは、読者に対して啓蒙を促さなければならないという意識である。その意識は、いろいろな表現で繰り返し表明されるが、最も端的に表わされるのが「社会の公民」というフレーズではないだろうか。例えば、『婦人新報』第372号（1929年3月号）では、日本の（特に

女性の）「国民性」をテーマとして河井道子、久布白落実ら7人で行った座談会の模様が収録されている。その前半でガントレットは、「善悪よりも義理が優先されたり忍耐を美德とする日本社会の風潮のなかでは、多くの女性にとって人生を自分の責任で切り開くという意識を持つことは難しい。自分の頭で考えたり個としての主体的な判断や行動ができない状況は、結果的には、社会に対する責任感を薄めることとも裏表一体であり、社会の一員としての自覚を乏しくさせる」とし、「男女にかかわらず社会の公民としての自覚を持つべきである」といった趣旨の発言している。こうした発言内容は、その後の「公民講座」の連載に展開していくなかで、やがては「国民」という桎梏から逃れられなくなっていくのであるが、ガントレットの人間観や足跡の全体を検証するには、「社会の公民」が意味するものについての説明が論点となると思われる。そして、明治～昭和初期、戦中、戦後にかけてガントレットという一人の人物が唱えた個人や社会のあり方を検討することは、現代において前提とされている人間観、「近代的個人」の源流を探究することの手掛かりの一つになると考える。今後は、市井の人々に「社会の公民」という概念がどのように受け止められ自覚されたのかを分析し、近代社会を構築するために必要とされた論理や価値について考察を進めていきたい。

小論では、ガントレット本人による著述物で刊行されたもののうち、ひとまず、単行本およびガントレットが活動の場とした日本キリスト教婦人矯風会機関誌『婦人新報』の記事のみを整理した。その他の逐次刊行物に寄稿した著述については次稿に譲る。

○主要参考文献

- 朝日新聞社編（1990）『現代日本朝日人物辞典』朝日新聞社
 ガントレット恒（1949）『七十七年の想ひ出』植村書店（=1990『伝記叢書 68 七十七年の想ひ出』大空社）
 五味百合子解説（1986）『『婦人新報』解説・総目次・索引』不二出版
 金子幸子ほか編（2008）『日本女性史大事典』吉川弘文館
 近代日本社会運動史人物大事典編集委員会編（1997）『近代日本社会運動史人物大事典 2』日外アソシエーツ
 『キリスト教人名辞典』編委員会編（1986）『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局
 市川房枝（1992-1994）『婦選：婦選獲得同盟機関誌 復刻版（全19巻）』不二出版

- 岩波書店編集部 (1991) 『近代日本総年表 第三版』 岩波書店
- 丸岡秀子ほか編 (1980) 『日本婦人問題資料集成 第十巻』 ドメス出版
- 永原和子監 (1995) 『日本女性肖像大事典』 日本図書センター
- 日本キリスト教婦人矯風会 (1986) 『日本基督教婦人矯風会百年史』 ドメス出版
- 日本キリスト教婦人矯風会 (1996-1998) 『婦人新報 復刻版 (全60巻)』 不二出版
- 日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 (1988) 『日本キリスト教史歴史大事典』 教文館
- 佐藤繭香 (2020) 「ガントレット恒子と女性参政権運動：日本キリスト教婦人矯風会の国際的なネットワーク」 麗澤大学紀要 第103号
- 山田耕筈 (1951) 『自伝 若き日の狂詩曲』 大日本雄弁会講談社 (=1985 『はるかなり青春の調べ 自伝 若き日の狂詩曲』 かのう書房)
- 芳賀登ほか監 『日本女性人名辞典』 (1998) 日本図書センター

*本研究は、科学研究費補助金基盤研究 (C) 「社会福祉実践の人間観：ガントレット恒子における『社会の公民』の論理」 (2018-2022年、課題番号18K02148) の助成を受けました。

¹ 矢島楯子 (1833-1925) は、女子教育者、社会事業家。1886年に「東京婦人矯風会」(のちに「日本基督教婦人矯風会」)を設立し、「一夫一婦制の建白」、「海外醜業婦取締に関する建白」を政府に提出、廃業した女性のための救済施設を設立するなど廃娼運動に尽力した。

² 女性参政権運動の中心となった団体。1924年、普通選挙法成立(但し対象は男子に限定)を目前に、女性参政権獲得を実現するには思想や党派を超えて大同団結する必要があった。無産階級、母権主義、女権主義、キリスト教など、従来異なる立場の女性たちが、参政権獲得の一点に目的を絞り協力した。1925年「婦選獲得同盟」に改称。機関誌は『婦選』(のちに『女性展望』)。

³ 1928年に太平洋および東南アジア地域の女性が国際平和のために協力しあうことを目的に発足した組織。初回議長は、アメリカの著名な社会事業家、ジェーン・アダムス (Jane Addams, 1860-1935)。ガントレットは第4回会議 (1937年) で議長を務める (『婦人新報』第488号)。

⁴ 1937年、基督教婦人矯風会、婦人同志会、婦選獲得同盟、女医会など自主的民間8団体は、時局が進み統制が厳しくなる中で統合を余儀なくされ、女性の立場から非常時局打開を目指して活動することになった。

⁵ 1886年に矢島楯子によって設立された日本で最初の自発的な社会改革を目的とする女性団体。(現在では日本キリスト教婦人矯風会と表記。) 本部は米国にあり、キリスト教の宣教活動の一環として当初は禁酒禁煙運動、公娼制度の廃止運動、それらの問題の基礎として一夫一婦制の徹底を唱えた。1920

年代から婦人参政権獲得運動にも力を入れた。機関誌『婦人新報』を発刊。

⁶ GHQ公共衛生福祉部の推奨により、戦後の混乱に乗じて増加していた「転落女性」の保護・更生の対策を講じるための連合団体。厚生省社会局、文部省、内務省、司法省など複数の政府部局が参加した (『婦人新報』第565号)。

⁷ この時の行程は、まず、林歌子とワシントンでの戦争原因及防止法研究会に参加し、署名運動や人種問題について提起する講演活動を展開、その上で米国代表と共にロンドンに向かい、軍縮会議全権 (若槻 (日)、MacDonald (英)、Stimson (米)、ほか仏の全権代表ら) との面会を果たした。「平和希望軍縮請願書」と日本女性18万人分の署名の平和決議文を読みあげ手渡した (『婦人新報』第386、388号)。

⁸ 人物事典では、本人だけでなくその「家族」に言及するものも多い。夫エドワード・ガントレット (George Edward Luckman Gauntlett, 1868-1956) は、英国ウェールズ州出身、メソジストミッションの派遣宣教師として1890年来日。矯風会を通じて山田恒子を知り結婚、後に帰化。東京高等商業学校 (一橋大学)、第六高等学校 (岡山大学)、山口高等商業学校 (山口大学)、立教大学などで英語・ラテン語・簿記の教鞭をとるほか、日本でのパイプオルガン普及、エスペラント語辞典発刊、山口県秋芳洞の学術調査に努めるなど、各方面で足跡を残した人物である。実弟の山田耕筈 (1886-1965) は、西洋音楽を取り入れ日本の近代音楽を確立させた作曲家、指揮者。耕筈の自伝 (山田1951=1985:54) によると、音楽の才能が開花したのは姉夫婦の存在が大きかったと述懐している。

⁹ 例えば、『日本女性史大事典』(2008) 吉川弘文館、『日本女性人名辞典』(1998) 日本図書センター、『近代日本社会運動史人物大事典2』(1997) 日外アソシエーツ、『日本女性肖像大事典』(1995) 日本図書センター、『現代日本 朝日人物辞典』(1990) 朝日新聞社、『日本キリスト教史歴史大事典』(1988) 教文館、『キリスト教人名辞典』(1986) 日本基督教団出版局など。

¹⁰ 文部省に社会教育局が新設されたことを受け、1925年に発足。民間の自発的教育運動を推進する官民一体の組織。月刊誌などにより啓発情報を数多く発信。

¹¹ 1920~30年代ごろは冊子として毎号50頁前後のボリュームを保っていたが、1944年では4頁程度の紙切れになり、第553号 (1944年4月号) をもって「終刊」、以後19ヶ月間出版を停止した。(終刊号に、今後は『新生命』に「統合」されるとの記述があるが、『新生命』での著述内容は未確認。) 第554号 (1945年12月号) において復刊。終刊、復刊どちらにおいても、ガントレットが巻頭言を著している。

¹² コンスタンス (Constance) は、「恒」の語義からとった愛称、時に筆名 (ガントレット1949=1990:55)。自伝によると、婚姻に際して、外国人との法的な結婚の前例がなかった当時、恒子は日本国籍を捨てイギリス国籍となつて法的婚姻関係を結んだ。その後、夫の親族のほとんどが既に亡くなっていたことや、英米との関係が悪化する中で、1940年夫婦ともに日本に帰化した、としている (ガントレット1949=1990:62-63, 156)。ただし、『婦人新報』の目次・本文において帰化名の「岸登恒」名義が初めて確認されるのは1943年3月号 (第540号) においてである。また、第542号

の消息欄に「ガントレット恒氏 岸登恒と変更さる」との掲載あり。

¹³ 自伝（ガントレット 1949=1990：77）では19歳で入会したとあるが、『婦人新報』の1895年9月号（第8号）の入会者欄に氏名が記されている。関係者との交友も多くあったようなので、正式な入会手続きは別にして、それよりも前から会に出入りしていたものと思われる。

¹⁴ 1919年文部省主催の「生活改善展覧会」の開催を受け、1920年文部省社会局に発足。国家発展の効率を上げるため、西洋の生活様式を積極的に取り入れ、合理的で近代的な生活

様式への変更が企図された。具体的には、社交儀礼、衣服、食生活、居住空間といった当時の日常生活全般に渡って利便性や経済性の点から社会の刷新を目指した。

¹⁵ 連載のシリーズ名において「婦人と政治知識」「参政権セクション」が混在し、また、通し番号に一部重複があるが、内容から一連のものとして捉える。

¹⁶ 原題は、*One More River*。1906-1921年に発表された小説をまとめた長編『フォーサイト物語』*The Forsyte Saga* (1922)の続編と位置づけられる。作者は1932年にノーベル文学賞を受賞し、この当時、世界的に注目されていた。